

1 . 提案の概要

拠点地区を

- ・超々高層化
- ・大深度地下化

することにより、
現在有している都市機能を、
ほぼ同じ地域で再構築・維持する。

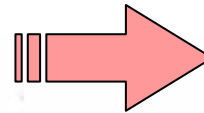
立体展開の効果

パッケージ空間内での
活動が本格化

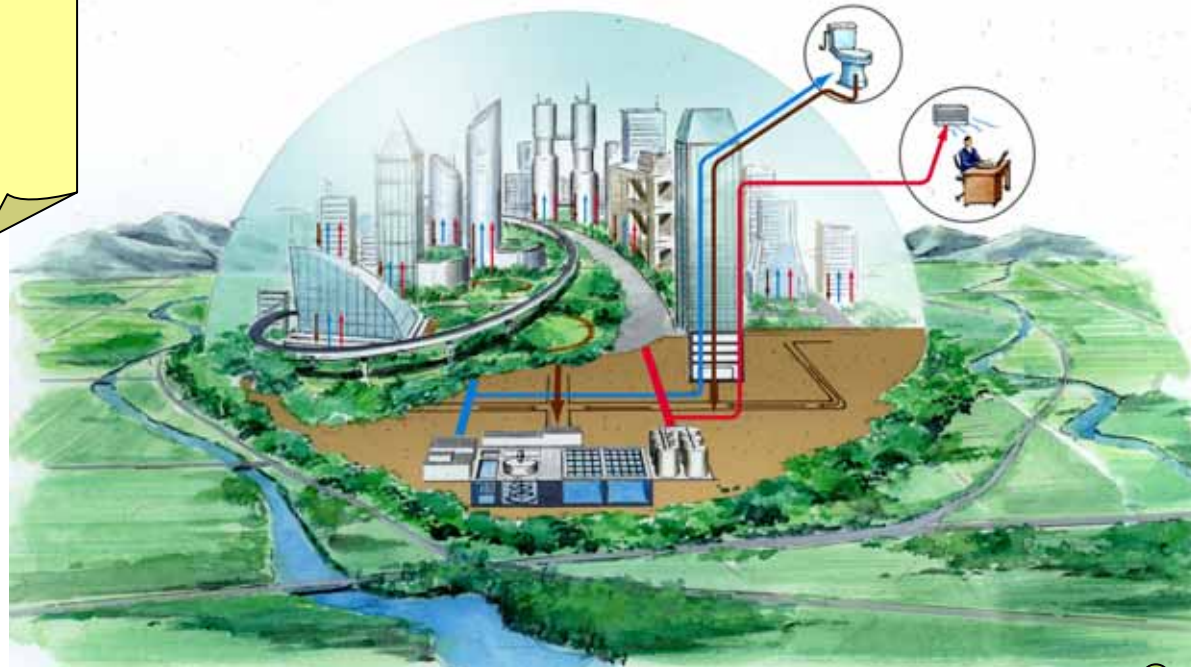
空間内でのみの
活動が可能

火星への移住技術の
足がかり

「ヒートアイランド現象」：
日本全土から見ればピンポイント

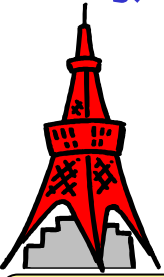


ピンポイントであるのなら、
包み込んでしまおう!!!

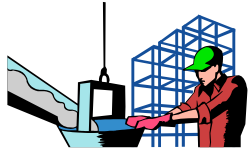


東京を再構築：環境に与える負荷が少ない首都機能を構築
JR山手線内側と周辺エリアでの都市活動を集積させる
その中で拠点地区の立体展開を図ることで再構築
拠点地区をパッケージすることで環境への負荷をコントロール

2. 提案の背景



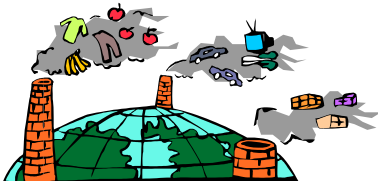
東京圏で首都機能を維持



現都市機能を維持しながらの再構築



機能を持ちつづけるため、環境への負荷を掛けない



首都・東京(東京圏)は、
・人とモノが集まる場所
・エネルギーが必要
・エネルギー等が発生
首都機能移転のほかに、
首都再生という手段もある。

なので、
する。



face to faceの大切さ
人が集まれる空間が必要

拠点地区の
立体展開

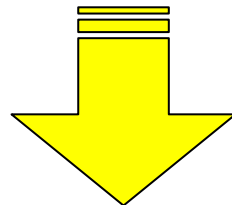
ヒートアイランド現象
に代表される
都市活動の弊害



化石燃料等による
エネルギーの限界
(枯渇・輸送・大気汚染)

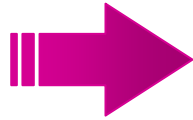


パッケージング



3. 提案の効果

下水道
これまでの100年間でできたこと

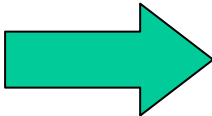


下水道
これからの100年間でできること
自給自足社会への寄与



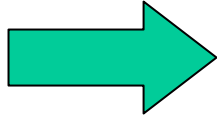
環境への負荷の
低減が可能

拠点地区を
ひとつの空間に
包み込む



【21世紀初頭】
S川駅東口・O崎地区（16施設、延床面積約129万m²）
水使用量に占める再生水の割合： 31.7%

空間の中で
自区内処理
が可能



・冷暖房エネルギーの自給
・水の循環利用
等

【21世紀初頭】
東京都B区K楽一丁目地区地域冷暖房
熱源： 生下水（ポンプ場）
供給先： 7施設
延床面積： 約242,000m²
ホテルやオフィスビル など

【21世紀初頭】
地上約240mの高層ビル
1日の使用水量： 約1,700m³
その内循環利用： 約1,000m³
下水道流出量： 約 700m³

4 . 実現のためのシナリオ

地球環境保全のために、活動拠点のマイナス面を閉じ込めてしまう！

この中で下水道ができることは・・・

- ・下水道が持つ未利用エネルギーのほとんどは下水処理場から取り出せる。
- ・これまでは、処理場と供給先との距離がネックであった。
- ・活動拠点をパッケージすれば、この問題もクリアできる。



都市のパッケージ化

- ・都市の再構築と緑地部を生み出す
立体展開により同時に実現
- ・都市活動を拠点化するための手段
高速移動手段による拠点の分散
- ・水とエネルギーの自給自足
ゼロエミッション都市を義務付け

下水道でできること

- ・エネルギー供給基地を担う
下水・処理水の持つ潜在エネルギー
- ・水資源の徹底的な再利用
水処理・再生技術の確立
- ・控えめな処理施設
上部利用や地下化による空間利用